

No.1 株式会社富山環境整備 (1/2)



長年培った廃棄物の適正処理・リサイクル技術と、ICT等の最先端技術を軸に、徹底的な資源循環・地域との共生を実践し、田園風景を未来へとつなぐ



■ 基本情報

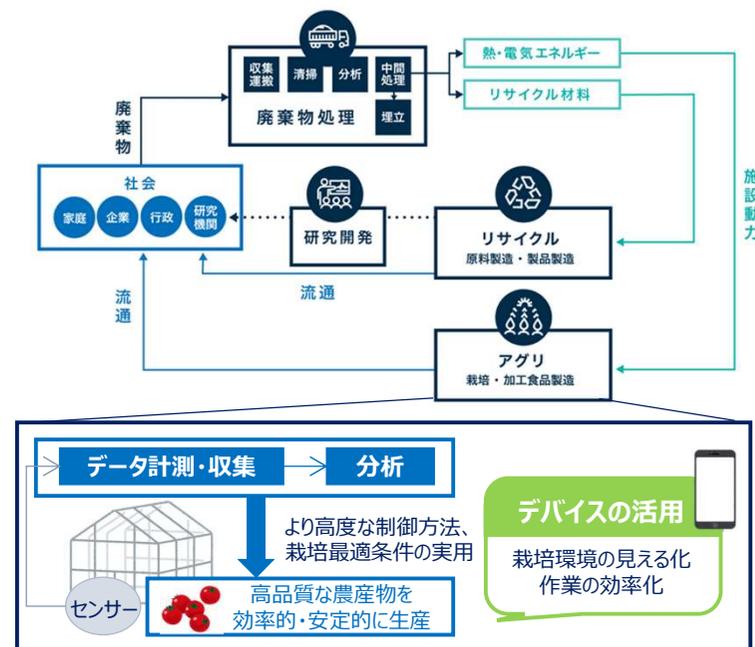
企業名	株式会社富山環境整備
本社所在地	富山県富山市
設立年	1972年
従業員数	374名(2022年3月時点)

■ 事業概要

- 株式会社富山環境整備（以下、富山環境整備）は、産業廃棄物処理を起点に、リサイクル製品やエネルギーへの転換、および農業へのエネルギー活用などの資源循環を推進。「地域との共生、田園風景を未来へとつなぐ」ことをビジョンに掲げている。
- 主な事業内容は、以下のとおり。
 - 廃棄物処理事業**：収集運搬、リサイクル・減容化を目的とした中間処理や最終処分を一貫して行う、国内でも数少ない「一括管理システム」で、高効率・省エネな廃棄物処理を実現する。また、光学式の選別技術を用いて、予想熱量・塩素濃度等のデータを管理するなど、高品質な素材・燃料製品化を行っている
 - リサイクル事業**：自己完結型マテリアルリサイクルシステムを構築し、プラ製品のリサイクル原料化・製品づくりを実施する
 - アグリ事業・地域振興**：廃棄物処理施設から発生する電気や熱を、隣接する農業用ハウスで利用する
新たな農業のスタイルに挑戦するために、ICTも活用しながら高効率な栽培に挑戦している
 - 環境分析・研究開発**：大学や研究機関と連携し、革新的なリサイクル技術の研究開発に取り組んでいる

■ 背景・課題

地域課題 ・ 企業課題	最終処分場の延命 ✓ 資源を余すことなく活用し、最終処分場の減容化に繋がりたいと考えていた。
地域資源	廃棄物処理ノウハウ ✓ 長年培った廃棄物の適正処理・リサイクル技術を保有していた。 最終処分場跡地 ✓ 最終処分場としての役目を終えた跡地の活用余地があった。
地域への貢献	地域との共生・里山再生 ✓ 脱炭素はもちろんのこと、自然と調和した田園風景を残すため、農林業との連携を推し進めている。



出所) 株式会社富山環境整備資料・インタビューより

No.1 株式会社富山環境整備 (2/2)

■ 事業立上・推進期における取り組み内容

立上期	推進期
<ul style="list-style-type: none"> 富山環境整備のルーツは、道路清掃事業を起点とする廃棄物処理事業である。廃棄物処理事業を柱に、世の中の流れに合わせて、その事業領域を拡大してきた。 例えば、1995年制定、2000年完全施行した容器包装リサイクル法を契機に、リサイクル事業を開始。富山環境整備として、最終処分場の減容化を進めたい想いと、企業のゼロエミッションに貢献したい想いから、リサイクル技術を強化してきた。 2001年からは、最終処分場の跡地を何かに活用できないかという話をきっかけに、小規模ながら試験的に農業栽培を開始。焼却発電施設が整備されてからは、園芸施設への熱供給にも取り組み始めた。 2015年より、富山県からスマートアグリ事業の紹介を受けて、次世代型施設園芸のモデル導入に向けたコンソーシアムを形成。農水省の補助事業を活用しつつ、28棟におよぶ園芸施設を整備し、本格的にアグリ事業を開始した。 	<ul style="list-style-type: none"> アグリ事業ではICTを活用し、周年栽培と生産管理の効率化に繋げている。アグリ事業の検討に際しては、コンソ構成員であるNTTデータの技術実証支援に基づいてICT活用を推進したほか、地元生産者との調整は行政や農協を通じて行うなど、幅広い主体と積極的に連携し、役割分担しながら取り組みを進めた。 アグリ事業の開始にあたっては、農業研究センター等における研修や農事組合法人からの技術支援、地元生産者の社員への採用等で、農業生産のノウハウを蓄積。その他、農業大学出身者の採用など含め、アグリ事業者による新規雇用者数は約100名に上るなどの、雇用創出・経済効果を生み出している。 生産しているフルーツトマトは、高品質な農産物として付加価値をつけて販売。アグリ事業は、現在は自社のみで完結する事業だが、今後は地域主体と連携を進め、取り組みを地域全体へ波及し、地域へ利益が還元できる形にしていきたいと考えている。

■ 取り組みにおける工夫

ポイント

定常的なコミュニケーションで 地域住民から理解を獲得

代表は日々、プラント周辺の一般家庭への挨拶回りを実施し、地域住民の声を聴いている。また、新事業を行う際の説明会や定期報告会を実施するなど、長年密なコミュニケーションをとっていることが地域住民の理解に繋がっている。

その他、地区別の協議会を通して取り組みを周知。積極的に廃棄物処理の現場を見ってもらうことで、地域全体を考えた取り組みであることを理解してもらっている。

ポイント

課題を通じた自社資源の掘り起こしで イノベーションを推進

富山環境整備は、廃棄物処理・リサイクル・農業生産など様々な事業に取り組んでおり、各事業部からメンバーを集めて、イノベーション事業部が設立されている。大学や研究機関に課題を提示してもらい、「この技術を活用すれば解決できるのではないか」というように、課題に応える形で、埋もれている自社商材の掘り起こしを行っている。

■ 目指す将来像

脱炭素社会への貢献

- 焼却エネルギー発電やバイオマス（廃棄物・木質）発電など、脱炭素化を支える仕組みづくりを推進する。

資源循環・地域との共生

- 約200haの山林を保有。農林分野との連携によりさらなる資源循環・里山再生につなげ、田園風景の保全や人が集まる場作りに取り組んでいく。

